

大学番号：私立251

[令和元年度設置]

計画の区分： 学部の学科の設置

認可

大手前大学 国際看護学部 看護学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 大手前学園
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総合企画部 総合企画室

職名・氏名 次長 ^{オオ}大 ^エ江 ^{シュン}俊 ^シ司

電話番号 0798-32-7521

（夜間） 0798-32-5043

F A X 0798-32-7533

e-mail g-ad@otemae.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

国際看護学部

＜国際看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	28
7. その他全般的事項	29

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 大手前学園

(2) 大 学 名 大手前大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒540-0008

大阪府大阪市中央区大手前2丁目1番88号

(〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町6番42号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フクイ ヨウ) 福井 要 (平成25年9月)		
学 長	(トリゴエ ヒロユキ) 鳥越 皓之 (平成28年4月)		
学 部 長	(スズイ エミコ) 鈴木 江三子 (平成31年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
令和2年度に報告する内容 → (2)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科の 分野	設 置 時 の 計 画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4 年	80 人	- 年次 人	320 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和○年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	80 (-) [-]	人 (-) [-]	80 (-) [-]	人 (-) [-]	1.02倍	一倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	618 (-) [-]	- (-) [-]	584 (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	580 (-) [-]	- (-) [-]	542 (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	147 (-) [-]	- (-) [-]	141 (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	84 (-) [-]	- (-) [-]	80 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A							1.05		1.00				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	84 (-)	- (-)	80 (-)	- (-)	
2 年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	- (-)	- (-)	81 (-)	- (-)	
3 年次					[] ()	[] ()	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
4 年次					- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
計					[] ()	[] ()	[] ()	84 (-)	- (-)	161 (-)	

・ 令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成28年度	人	人	平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	84 人	3 人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	3 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)、他学部への転部(1人)
令和2年度	161 人	0 人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		3 人		3 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
- ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{84} = \boxed{3.57} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{161} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<国際看護学部 看護学科>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
総合科目	基礎分野	キャリアプランニングⅠ	1前	1			6	4	9	10		
		キャリアプランニングⅡ	2前	1		6	4	9	10			
		生命・医療倫理	1後	1								1
		哲学入門	1前		1							1
		法学の基礎	1前		1							1
		国際社会学	4前		1							1
		看護のための接遇演習	1前・後		1							1
	グローバル社会と言葉	Practical EnglishⅠ for Nurses	1前	1				1				2
		Practical EnglishⅡ for Nurses	1前	1				1				2
		Academic Writing & Debate	3前	1								1
		看護のための中国語	1後		1							1
		看護のための韓国語	1後		1							1
		Basic Communication in Global Context	2前		1			1				
		Listening & Speaking in a Global Society	2前		1			1				
	社会と文化	大版・神戸における多様な共生社会と文化	1前	1			1					6
		医療人類学	1前	2			1					
		情報倫理	1後		1							1
		国際政治・経済	1後		1							1
	科学と情報	化学	1前	2			1					
		生物学・細胞生物学	1前	2								1
		情報活用Ⅰ	1前	1								1
		情報活用Ⅱ(含統計処理)	1後	1								1
	とスポーツ	スポーツ生理学	1前	1								1
		スポーツと健康	1後	1								1
小計(24科目)			-	17	10	0	8	5	9	10	0	21

【令和2年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
総合科目	基礎分野	キャリアプランニングⅠ	1前	1			4	5	8	9		
		キャリアプランニングⅡ	2前	1			4	5	8	9		
		生命・医療倫理	1後	1								1
		哲学入門	1前		1							1
		法学の基礎	1前		1							1
		国際社会学	4前		1							1
		看護のための接遇演習	1前・後		1							1
	グローバル社会と言葉	Practical EnglishⅠ for Nurses	1前	1				1				2
		Practical EnglishⅡ for Nurses	1前	1				1				2
		Academic Writing & Debate	3前	1								1
		看護のための中国語	1後		1							1
		看護のための韓国語	1後		1							1
		Basic Communication in Global Context	2前		1			1				
		Listening & Speaking in a Global Society	2前		1			1				2
	社会と文化	大版・神戸における多様な共生社会と文化	1前	1			1					6
		医療人類学	1前	2			1					
		情報倫理	1後		1							1
		国際政治・経済	1後		1							1
	科学と情報	化学	1前	2			1					
		生物学・細胞生物学	1前	2								1
		情報活用Ⅰ	1前	1								2
		情報活用Ⅱ(含統計処理)	1後	1								2
	とスポーツ	スポーツ生理学	1前	1								1
		スポーツと健康	1後	1								1
小計(24科目)			—	17	10	0	6	6	8	9	0	21

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置				兼 任・ 兼 担		
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手	
専 門 基 礎 分 野	人体の 構造と 機能	解剖生理学	1前	2								1	
		病態生理学	1前	2			1						
		生化学	1後	1								1	
		薬理学	1後	1			1						
		微生物学・医動物	1後	1								1	
		臨床栄養学	1後	2								1	
	疾病の 成り立ち と回復の 促進	病態学Ⅰ（呼吸器・循環器）	2前	1								1	
		病態学Ⅱ（栄養代謝）	2前	1								1	
		病態学Ⅲ（造血・免疫）	2前	1			1						
		病態学Ⅳ（脳・神経・感覚）	2前	1								1	
		病態学Ⅴ（運動）	2前	1			1						
		病態学Ⅵ（内部環境調節・性・生殖）	2前	1			1						
	健康支援と 社会保健 制度	疾病と治療	2前	1			1						
		健康と社会・生活	2後	1			1						
		公衆衛生	2後	2								1	
		社会福祉と社会保障	2後	2			2					1	
	医療関係法規	医療関係法規	2後	2			2			2		1	
		医療コミュニケーション の発達とライフサイクル	医療コミュニケーション	1前	1				1				
			ひとの発達とライフサイクル	1後	1								1
			カウンセリングスキル	2前	2								1
小計(20科目)			－	27	0	0	3	0	1	2	0	12	
専 攻 科 目	基礎看護学	看護学概論	1前	1			1						
		グローバルヘルスと看護	1前	1			1						
		基礎看護方法論Ⅰ（含医療安全）	1後	2			1		1				
		基礎看護方法論Ⅱ（含看護管理）	3後	1					2				
		基礎看護技術Ⅰ	1前	1			1		2				
		基礎看護技術Ⅱ	1後	1					2	1			
		基礎看護技術Ⅲ	2前	1					2	1			
		基礎看護技術Ⅳ	2後	1			1		2				
		看護過程	2通	1					4	1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			1		4	1	1		
		基礎看護学実習Ⅱ	2前	1			1		4	1	1		
		基礎看護学実習Ⅲ	2後	2			1		4	1	1		
	成人看護学	成人看護学概論	2前	1			1						
		多様性とセルフマネジメント	2前	1			1						
		急性看護援助論Ⅰ	2後	1			1			1			
		急性看護援助論Ⅱ	3前	1			1	1	1				
		慢性看護援助論Ⅰ	2後	1				2		1			
		慢性看護援助論Ⅱ	3前	1				2		1			
	母性看護学	成人看護学実習(急性期)	3前	3			1	2	1	1	3		
		成人看護学実習(慢性期)	3前	3			1	2	1	1	3		
母性健康看護学概論		2後	1			1							
グローバル社会とウィメンズヘルス		2後	1			1							
小児看護学	母性看護援助論Ⅰ	3前	1			1		1	1				
	母性看護援助論Ⅱ	3後	1			1		1	1				
	母性看護学実習	3後	2			1		1	1				
	小児看護学概論	2後	1			1							
	多様性と子ども	2後	1			1							
	小児看護援助論Ⅰ	3前	1			1		1	1				
小児看護援助論Ⅱ	3後	1			1		1	1					
小児看護学実習	3後	2			1		1	1					

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任・ 兼 担		
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 攻 科 目	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	1前	2								1	
			病態生理学	1前	2		1							
			生化学	1後	1								1	
			薬理学	1後	1		1							
			微生物学・医動物	1後	1								1	
			臨床栄養学	1後	2								1	
		疾病の成り立ちと回復の促進	病態学Ⅰ(呼吸器・循環器)	2前	1									1
			病態学Ⅱ(栄養代謝)	2前	1									1
			病態学Ⅲ(造血・免疫)	2前	1			1						
			病態学Ⅳ(脳・神経・感覚)	2前	1									1
	健康支援と社会保健制度	病態学Ⅴ(運動)	2前	1			1							
		病態学Ⅵ(内部環境調節・性・生殖)	2前	1			1							
		疾病と治療	2前	1			1							
		医療コミュニケーションの発達とライフサイクル	健康と社会・生活	2後	1			1						
	公衆衛生		2後	2									1	
	社会福祉と社会保障		2後	2			2						1	
	医療関係法規		2後	2			1			2			1	
	小計(20科目)		－	27	0	0	2	0	1	2	0		12	
		基礎専門看護学分野	基礎看護学	看護学概論	1前	1								
	グローバルヘルスと看護			1前	1									1
基礎看護方法論Ⅰ(含医療安全)	1後			2					1					
基礎看護方法論Ⅱ(含看護管理)	3後			1					2					
基礎看護技術Ⅰ	1前			1					2					
基礎看護技術Ⅱ	1後			1					2	1				
基礎看護技術Ⅲ	2前			1					2	1				
基礎看護技術Ⅳ	2後			1					2					
看護過程	2通			1					4	1				
基礎看護学実習Ⅰ	1後			1					4	1	1			
専門分野	成人看護学	基礎看護学実習Ⅱ	2前	1				4	1	1				
		基礎看護学実習Ⅲ	2後	2				4	1	1				
		成人看護学概論	2前	1			1							
		多様性とセルフマネジメント	2前	1			1							
		急性看護援助論Ⅰ	2後	1			1	1		2				
		急性看護援助論Ⅱ	3前	1			1	2		1				
	母性看護学	慢性看護援助論Ⅰ	2後	1				2		2				
		慢性看護援助論Ⅱ	3前	1				2		2				
		成人看護学実習(急性期)	3前	3			1	3		2	2			
		成人看護学実習(慢性期)	3前	3			1	3		2	2			
生涯発達看護学分野	母性看護学	母性健康看護学概論	2後	1										
		グローバル社会とウィメンズヘルス	2後	1										
		母性看護援助論Ⅰ	3前	1					1	1				
		母性看護援助論Ⅱ	3後	1				1	1					
	小児看護学	母性看護学実習	3後	2				1	1					
		小児看護学概論	2後	1			1							
		多様性と子ども	2後	1			1							
		小児看護援助論Ⅰ	3前	1			1		1	1				
小児看護援助論Ⅱ	3後	1			1		1	1						
小児看護学実習	3後	2			1		1	1						

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専攻科目	生涯発達看護学 分野	高齢者看護学概論	3前	1			1						
		多様性と超高齢化社会	3前	1			1						
		高齢者看護援助論Ⅰ	3前	1					1	1			
		高齢者看護援助論Ⅱ	3後	1					1	1	1		
		高齢者看護学実習Ⅰ	3後	2					1	1	2	2	
		高齢者看護学実習Ⅱ	3後	2					1	2	2	2	
	精神看護学	精神看護学概論	2後	1				1					
		地域社会のメンタルヘルスと多様性	3前	1				1					
		精神看護援助論Ⅰ	3後	1				1	1	1			
		精神看護援助論Ⅱ	4前	1				1	1	1			
		精神看護学実習	4前	2				1	1	1			
		在宅看護学概論	2後	1				1					
	国際地域看護学 分野	グローバル化と在宅看護	3前	1				1					
		在宅看護援助論Ⅰ	3後	1				1			2		
		在宅看護援助論Ⅱ	4前	1				1			2		
		在宅看護学実習	4前	2				1			2		
		国際看護学概論	1前	1				1					
		国際看護演習Ⅰ	1後	1				1	1		1		
	国際看護学	国際看護演習Ⅱ	2前	1				1	1				
		国際看護演習Ⅲ	3前	1				1	1				
		国際看護演習Ⅳ	4後		1			1	1				
		国際看護学実習Ⅰ	1前	1				1	1		1		
		国際看護学実習Ⅱ	2前・後	1				1	1		1		
		国際看護学実習Ⅲ	3後	1				1	1		1		
	統合分野	外国人診療	4前	1				2					1
		災害看護	4後	1					1				
		看護研究Ⅰ	3後	1				6	4	9			
		看護研究Ⅱ	4通	3				6	4	9			
		統合看護学実習	4後	2				6	4	9	10		
		小計(59科目)		-	73	1	0	7	4	9	10	3	1
	合計(103科目)				-	117	11	0	8	5	9	10	3
卒業要件及び履修方法													
〈卒業要件〉 ・4年以上在学し、必修117単位、選択必修2単位を含む合計124単位以上を修得すること。 ・入学時からの通算GPA1.5以上 履修科目の登録の上限:1年次 40単位/年度、2～4年次 20単位/学期 ※GPAにより変動													
〈履修方法〉 総合科目の【基礎分野】から、以下の通り合計22単位以上を修得すること。 ・必修17単位 ・[グローバル社会と言葉]から選択必修2単位※ ・[リベラルアーツ][グローバル社会と文化]の選択科目から合計3単位以上 専攻科目の【専門基礎分野】区分から必修27単位を修得すること。 専攻科目の【専門分野】区分から必修73単位を修得すること。													
※「看護のための中国語」または「看護のための韓国語」のいずれか1単位 および「Basic Communication in Global Context」または「Listening & Speaking in a Global Society」のいずれか1単位													

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専攻科目	生涯発達看護学分野	高齢者看護学概論	3前	1			1						
		多様性と超高齢化社会	3前	1			1						
		高齢者看護援助論Ⅰ	3前	1									
		高齢者看護援助論Ⅱ	3後	1					1	1			
		高齢者看護学実習Ⅰ	3後	1					1	1			
		高齢者看護学実習Ⅱ	3後	2					1	1	2		
	精神看護学	精神看護学概論	2後	1				1					
		地域社会のメンタルヘルスと多様性	3前	1				1					
		精神看護援助論Ⅰ	3後	1				1	1	1			
		精神看護援助論Ⅱ	4前	1				1	1	1			
		精神看護学実習	4前	2				1	1	1			
		在宅看護学概論	2後	1				1					
	国際地域看護学分野	グローバル化と在宅看護	3前	1				1					
		在宅看護援助論Ⅰ	3後	1				1			1		
		在宅看護援助論Ⅱ	4前	1				1			1		
		在宅看護学実習	4前	2				1			1		
		国際看護学概論	1前	1				1					
		国際看護演習Ⅰ	1後	1				1	1		1		
	国際看護学	国際看護演習Ⅱ	2前	1				1	1				
		国際看護演習Ⅲ	3前	1				1	1				
		国際看護演習Ⅳ	4後		1			1	1				
		国際看護学実習Ⅰ	1前	1				1	1		1		
		国際看護学実習Ⅱ	2通	1				1	1		1		
		国際看護学実習Ⅲ	3後	1				1	1		1		
	統合分野	外国人診療	4前	1				2				1	
		災害看護	4後	1					1				
		看護研究Ⅰ	3後	1				4	5	8			
		看護研究Ⅱ	4通	3				4	5	8			
		統合看護学実習	4後	2				4	5	8	9		
		小計(59科目)			－	73	1	0	5	5	8	9	2
	合計(103科目)			－	117	11	0	6	6	8	9	2	34
卒業要件及び履修方法													
〈卒業要件〉 ・4年以上在学し、必修117単位、選択必修2単位を含む合計124単位以上を修得すること。 ・入学時からの通算GPA1.5以上 履修科目の登録の上限:1年次 40単位／年度、2～4年次 20単位／学期 ※GPAにより変動 〈履修方法〉 総合科目の【基礎分野】から、以下の通り合計22単位以上を修得すること。 ・必修17単位 ・[グローバル社会と言葉]から選択必修2単位※ ・[リベラルアーツ][グローバル社会と文化]の選択科目から合計3単位以上 専攻科目の【専門基礎分野】区分から必修27単位を修得すること。 専攻科目の【専門分野】区分から必修73単位を修得すること。													
※「看護のための中国語」または「看護のための韓国語」のいずれか1単位 および「Basic Communication in Global Context」または「Listening & Speaking in a Global Society」のいずれか1単位													

【令和元年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
総合科目	基礎分野	キャリアプランニングⅠ	1前	1			6	4	8	10			
		キャリアプランニングⅡ	2前	1		6	4	8	10				
		生命・医療倫理	1後	1								1	
		哲学入門	1前		1							1	
		法学の基礎	1前		1							1	
		国際社会学	4前		1							1	
		看護のための接遇演習(後・未開講)	1前・後		1							1	
		グローバル社会と言葉	Practical EnglishⅠ for Nurses	1前	1				1				2
		Practical EnglishⅡ for Nurses	1前	1				1				2	
		Academic Writing & Debate	3前	1								1	
		看護のための中国語	1後		1							1	
		看護のための韓国語	1後		1							1	
	Basic Communication in Global Context	2前		1			1						
	Listening & Speaking in a Global Society	2前		1			1						
	グローバル社会と文化	大阪・神戸における多様な共生社会と文化	1前	1			1					6	
	医療人類学	1前	2			1							
	情報倫理	1後		1							1		
	国際政治・経済	1後		1							1		
	科学と情報	化学	1前	2			1						
	生物学・細胞生物学	1前	2									1	
	情報活用Ⅰ	1前	1									2	
	情報活用Ⅱ(含統計処理)	1後	1									2	
	スポーツと健康	スポーツ生理学	1前	1								1	
	スポーツと健康	1後	1									1	
	小計(24科目)			-	17	10	0	8	5	8	10	0	22
科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	1前	2									1
		病態生理学	1前	2			1						
		生化学	1後	1									1
		薬理学	1後	1			1						
		微生物学・医動物	1後	1									1
		臨床栄養学	1後	2									1
		疾病の成り立ちと回復の促進	病態学Ⅰ(呼吸器・循環器)	2前	1								1
	病態学Ⅱ(栄養代謝)	2前	1									1	
	病態学Ⅲ(造血・免疫)	2前	1			1							
	病態学Ⅳ(脳・神経・感覚)	2前	1									1	
	病態学Ⅴ(運動)	2前	1			1							
	病態学Ⅵ(内部環境調節・性・生殖)	2前	1			1							
	疾病と治療	2前	1			1							
	健康支援と社会保障	健康と社会・生活	2後	1			1						
		公衆衛生	2後	2									1
		社会福祉と社会保障	2後	2			2						1
		医療関係法規	2後	2			2			2			1
	医療コミュニケーション	医療コミュニケーション	1前	1					1				
ひとの発達とライフサイクル		1後	1									1	
カウンセリングスキル		2前	2									1	
小計(20科目)			-	27	0	0	3	0	1	2	0	12	

卒業要件及び履修方法

〈卒業要件〉

- ・4年以上在学し、必修117単位、選択必修2単位を含む合計124単位以上を修得すること。
- ・入学時からの通算GPA1.5以上
- ・履修科目の登録の上限:1年次 40単位/年度、2～4年次 20単位/学期 ※GPAにより変動

〈履修方法〉

総合科目の【基礎分野】から、以下の通り合計22単位以上を修得すること。

- ・必修17単位
- ・[グローバル社会と言葉]から選択必修2単位※
- ・[リベラルアーツ][グローバル社会と文化]の選択科目から合計3単位以上

専攻科目の【専門基礎分野】区分から必修27単位を修得すること。

専攻科目の【専門分野】区分から必修73単位を修得すること。

※「看護のための中国語」または「看護のための韓国語」のいずれか1単位 および「Basic Communication in Global Context」または「Listening & Speaking in a Global Society」のいずれか1単位

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

西原かおり講師就任辞退による、教員配置の変更

- ・「キャリアプランニングⅠ」の専任教員講師の配置を「9」から「8」に変更。
- ・「キャリアプランニングⅡ」の専任教員講師の配置を「9」から「8」に変更。
- ・「高齢者看護援助論Ⅰ」の専任教員講師の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「高齢者看護援助論Ⅱ」の専任教員講師の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「高齢者看護学実習Ⅰ」の専任教員講師の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「高齢者看護学実習Ⅱ」の専任教員講師の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「看護研究Ⅰ」の専任教員講師の配置を「9」から「8」に変更。
- ・「看護研究Ⅱ」の専任教員講師の配置を「9」から「8」に変更。
- ・「統合看護学実習」の専任教員講師の配置を「9」から「8」に変更。

【令和2年度】

配当学期の変更

- ・教育効果を考慮し、「国際看護学実習Ⅱ」の開講時期を「2前・後」から「2通」に変更。

教育課程充実のためのクラス増に伴う担当者追加

- ・「Listening & Speaking in a Global Society」の兼任・兼任教員の配置を「0」から「2」に変更。

卯川久美准教授昇任、土谷僚太郎助教昇任、

服部容子教授退職、齋藤雅子教授退職、井上勇太助教退職、

狩野由紀子助教就任辞退、後藤小夜子助教就任辞退、

田中春菜講師就任、堀川尚子助教就任

による、教員配置の変更

- ・「キャリアプランニングⅠ」の専任教員教授の配置を「6」から「4」、専任教員准教授の配置を「4」から「5」、専任教員助教の配置を「10」から「9」に変更。
- ・「キャリアプランニングⅡ」の専任教員教授の配置を「6」から「4」、専任教員准教授の配置を「4」から「5」、専任教員助教の配置を「10」から「9」に変更。
- ・「医療関係法規」の専任教員教授の配置を「2」から「1」に変更。
- ・「看護学概論」の専任教員教授の配置を「1」から「0」、兼任・兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「グローバルヘルスと看護」の専任教員教授の配置を「1」から「0」、兼任・兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「基礎看護方法論Ⅰ（含医療安全）」の専任教員教授の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「基礎看護技術Ⅰ」の専任教員教授の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「基礎看護技術Ⅳ」の専任教員教授の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員教授の配置を「1」から「0」。
- ・「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員教授の配置を「1」から「0」。
- ・「基礎看護学実習Ⅲ」の専任教員教授の配置を「1」から「0」。
- ・「急性看護援助論Ⅰ」の専任教員准教授の配置を「0」から「1」、専任教員講師の配置を「1」から「0」、専任教員助教の配置を「1」から「2」に変更。
- ・「急性看護援助論Ⅱ」の専任教員准教授の配置を「1」から「2」、専任教員講師の配置を「1」から「0」、専任教員助教の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「慢性看護援助論Ⅰ」の専任教員助教の配置を「1」から「2」に変更。
- ・「慢性看護援助論Ⅱ」の専任教員助教の配置を「1」から「2」に変更。
- ・「成人看護学実習（急性期）」の専任教員准教授の配置を「2」から「3」、専任教員講師の配置を「1」から「0」、専任教員助教の配置を「1」から「2」、専任教員助手の配置を「3」から「2」に変更。
- ・「成人看護学実習（慢性期）」の専任教員准教授の配置を「2」から「3」、専任教員講師の配置を「1」から「0」、専任教員助教の配置を「1」から「2」、専任教員助手の配置を「3」から「2」に変更。
- ・「母性健康看護学概論」の専任教員教授の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「グローバル社会とウィメンズヘルス」の専任教員教授の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「母性看護援助論Ⅰ」の専任教員教授の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「母性看護援助論Ⅱ」の専任教員教授の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「母性看護学実習」の専任教員教授の配置を「1」から「0」に変更。
- ・「高齢者看護援助論Ⅰ」の専任教員講師の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「高齢者看護援助論Ⅱ」の専任教員講師の配置を「0」から「1」に変更。
- ・「高齢者看護学実習Ⅰ」の専任教員講師の配置を「0」から「1」、専任教員助教の配置を「2」から「1」に変更。
- ・「高齢者看護学実習Ⅱ」の専任教員講師の配置を「0」から「1」、専任教員助教の配置を「2」から「1」に変更。
- ・「在宅看護援助論Ⅰ」の専任教員助教の配置を「2」から「1」に変更。
- ・「在宅看護援助論Ⅱ」の専任教員助教の配置を「2」から「1」に変更。
- ・「在宅看護学実習」の専任教員助教の配置を「2」から「1」に変更。
- ・「看護研究Ⅰ」の専任教員教授の配置を「6」から「4」、専任教員准教授の配置を「4」から「5」に変更。
- ・「看護研究Ⅱ」の専任教員教授の配置を「6」から「4」、専任教員准教授の配置を「4」から「5」に変更。
- ・「統合看護学実習」の専任教員教授の配置を「6」から「4」、専任教員准教授の配置を「4」から「5」、専任教員助教の配置を「10」から「9」に変更。

(注)

授業科目名の変更、新規科目の追加などを簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
92 科目	11 科目	0 科目	103 科目	92 科目 [0]	11 科目 [0]	0 科目 [0]	103 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{103} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容						備考		
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		校舎敷地と別地：学園バスにて20分～50分 大手前短期大学及び大手前栄養製菓学院専門学校と共用 「土地売却・近接地購入・研究施設の転用等のため(元)」 「近隣地購入・面積訂正のため(2)」		
	校 舎 敷 地	1685.96㎡ 24,777㎡ 23,779㎡	48,358.49㎡ 22,839㎡ 23,641㎡	802.57㎡ 802㎡ 0㎡		50,847.02㎡ 48,418㎡ 47,420㎡				
	運動場用地	0㎡ 763㎡	21,829.47㎡ 21,829㎡	0㎡		21,829.47㎡ 22,592㎡				
	小 計	1685.96㎡ 25,540㎡ 24,542㎡	70,187.96㎡ 44,668㎡ 45,470㎡	802.57㎡ 802㎡ 0㎡		72,676.49㎡ 71,010㎡ 70,012㎡				
	そ の 他	0㎡ 4,402㎡ 6,434㎡	5,165.33㎡ 1,558㎡	0㎡		5,165.33㎡ 5,960㎡ 7,992㎡				
	合 計	1685.96㎡ 29,942㎡ 30,976㎡	75,353.29㎡ 46,226㎡ 47,028㎡	802.57㎡ 802㎡ 0㎡		77,841.82㎡ 76,970㎡ 78,004㎡				
(2)校 舎		専 用 20,669.45㎡ 32,247㎡ 30,606㎡ (30,606㎡)	共 用 21,220.96㎡ 13,002㎡ 12,841㎡ (12,841㎡)	共用する他の 学校等の専用 6,325.03㎡ 3,661㎡ (3,661㎡)		計 48,215.44㎡ 48,910㎡ 47,108㎡ (47,108㎡)		大手前短期大学及び大手前栄養製菓学院専門学校と共用「新築・建物売却・建物購入・研究施設の転用のため(元)」 「新築工事に伴う建物解体のため(2)」		
(3)教 室 等		講 義 室 45 55室 54室	演 習 室 24 20室	実験実習室 55 57室 46室		情報処理学習施設 11室 (補助職員 3人)		語学学習施設 0室 (補助職員 0人)		大学全体 「用途変更のため(元)」 「用途変更のため(2)」
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称 国際看護学部 看護学科				室 数 22 室		共同研究室2室を含む		
(5)図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	「医療・看護学関連の学術雑誌(電子ジャーナル含む)を整備したため(2)」	
	国際看護学部	3,768 [474] (3,400 [391]) (- 3,095 [374]) (- 3,068 [370])	1,994 [732] (7,056 [5,181]) (- 2,104 [789]) (- 1,994 [732])		1,982 [730] (7,043 [5,178]) (- 2,091 [786]) (- 1,982 [730])	350 (324) (- 304) (- 301)	5,677 (5,677)	35 (35)		
	計	3,768 [474] (3,400 [391]) (- 3,095 [374]) (- 3,068 [370])	1,994 [732] (7,056 [5,181]) (- 2,104 [789]) (- 1,994 [732])		1,982 [730] (7,043 [5,178]) (- 2,091 [786]) (- 1,982 [730])	350 (324) (- 304) (- 301)	5,677 (5,677)	35 (35)		
(6)図 書 館		面 積 4,385.36㎡ 3,131㎡		開 覧 座 席 数 524		収 納 可 能 冊 数 289,167		大学全体 「面積訂正のため(2)」		
(7)体 育 館		面 積 2,518.28㎡ 3,355㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要 フィットネススタジオ		アスレチックジム		大学全体 「面積訂正のため(2)」		
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。	
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	26,420千円 26,422千円	1,155 1,120千円	10,552千円		
		共 同 研 究 費 等	1,600千円	1,600千円	設備購入費	285,415千円 285,423千円	2,637 0千円	0千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,890千円	1,620千円	1,620千円	1,620千円	- 千円	- 千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	大手前大学										備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
総合文化学部								-	平成19年度	兵庫県西宮市御茶家 所町6番42号	
総合文化学科	4	190	2年次 4 3年次 2	776	学士 (学術)	1.04	1.03			兵庫県伊丹市稲野町 2丁目2番2号	
デザイン・芸術学部								-	平成19年度	同上	
デザイン・芸術学科	4	180	2年次 4 3年次 2	736	学士 (学術)	1.08	1.07			同上	
現代社会学部								-	平成19年度	同上	
現代社会学科	4	220	2年次 4 3年次 2	896	学士 (学術)	1.12	1.12			同上	
健康栄養学部								-	平成28年度	大阪市中央区大手前 2丁目1番88号	
管理栄養学科	4	80	3年次 16	352	学士 (栄養学)	0.95	0.67				
国際看護学部								-	平成31年度	同上	
看護学科	4	80	-	160	学士 (看護学)	1.02	1.00				
現代社会学部								-	平成22年度	兵庫県西宮市御茶家 所町6番42号	
現代社会学科 (通信教育課程)	4	500	3年次 500	3,000	学士 (学術)	0.19	0.24				
大学全体	-	1,250	2年次 12 3年次 522	5,920	-	-	-	-	-	-	
大 学 の 名 称	大手前大学大学院										備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍				
比較文化研究科											
比較文化専攻 (博士前期課程)	2	10	-	20	修士(学術)	0.35	0.30	-	平成8年度	兵庫県西宮市御茶家 所町6番42号	
比較文化研究科											
比較文化専攻 (博士後期課程)	3	3	-	9	博士(学術)	0.33	0.33	-	平成10年度	同上	
大学全体	5	13	-	29	-	-	-	-	-	-	
大 学 の 名 称	大手前短期大学										備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍				
ライフデザイン総合学科	2	150	-	350	短期大学士 (ライフデザイン)	1.13	1.12	平成31 令和2	平成16年度	兵庫県伊丹市稲野町 2丁目2番2号	平成31年度入学定員 減(△50人) 令和2年度入学定員減 (△50人)
歯科衛生学科	3	70	-	70	短期大学士 (歯科衛生学)	1.10	1.10	-	令和2年度	兵庫県西宮市御茶家 所町6番42号	
大学全体	-	220	-	420	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び
高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている
場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の
入学定員超過率の平均を記載してください。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を
記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成31)	一般入試及び大学入試センター試験利用入試において提出を求める「志望調書」について、入学者選抜の合否判定の配点に含まれるのかなどの当該書類の位置付けを入学志願者に明確に示すこと。なお、当該書類を入学者選抜の合否判定の配点に含むのであれば、客観的に評価できる評価方法で実施すること。	遵守事項 「志望調書」の記入に関しては、募集要項の選考方法欄の配点項目には記載せず、「志望調書」は含まれないことを表示し、合否判定の配点に教科による判定と明記している。なお、出願はインターネット出願になるため、志願者に志願情報を入力する前に「志望調書」の記入見本(別添資料1)を画面上で確認させ、出願時に戸惑いが生じないように配慮している。(元)	履行済
認 可 時 (平成31)	教員の補充を必要とされた2授業科目については、科目開講時までに教員を充足すること。	遵守事項 教員の補充を必要とされた2授業科目については、現在教育・研究の実績を持った教員を探しており、令和3年度の科目開講時に間に合うようにAC教員審査の受審を完了させて配置する予定である。(2)	履行中 年4回のAC教員審査の時期に合わせ、計画的に書類提出し受審を受ける予定である。(2)

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<国際看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学にてFD委員会を設置し、副学長を委員長とし各学部より選出され教学運営評議会にて承認された教員若干名で組織されている。（別添資料2）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

2019年度の本委員会の開催状況は下記のとおりである。

第1回	2019年 4月 9日(火)	出席委員 9名	欠席委員 5名	担当事務局 2名
第2回	2019年 5月 7日(火)	出席委員 13名	欠席委員 1名	担当事務局 2名
第3回	2019年 6月 4日(火)	出席委員 13名	欠席委員 1名	担当事務局 4名
第4回	2019年11月 5日(火)	出席委員 11名	欠席委員 3名	担当事務局 2名
第5回	2019年12月 3日(火)	出席委員 12名	欠席委員 2名	担当事務局 2名
第6回	2020年 2月 4日(火)	出席委員 11名	欠席委員 3名	担当事務局 2名

c 委員会の審議事項等

- ・ 2019年度のFDの運営について
- ・ FDとSDのあり方について
- ・ FDのテーマについて
- ・ 国際看護学部4月FDの報告
- ・ 著作権に関するFDの実施について
- ・ 大手前プレゼンフェスタFDの実施について
- ・ 2019年度国際看護学部のFD目標と計画
- ・ 国際看護学部FD実施状況
- ・ 12月FD実施について
- ・ 今後のFD実施について
- ・ 2020年度メジャーカリキュラムに関するFDの実施
- ・ PC必携化に関するFDの実施について

② 実施状況

a 実施内容

- ① 教員相互の授業参観
- ② 専任教員対象FD
- ③ 教員・職員対象のFSD
- ④ 職員研修への参加SD

b 実施方法

① 教員相互の授業参観

毎年度、春学期もしくは秋学期の3週間を設定し、専任教員及び非常勤教員が相互に授業を見学し、気づいた点や参考になった点等をお互いが報告し、様々な授業を見学することにより、また、見学されることにより、学生に対してより良い授業となるよう教員が自ら授業改善するようにしている。

専任教員には1科目以上の見学実施を促しており、過去に見学をした授業以外で行うようにしている。また、相互の報告書については学内掲示板での掲載をし、他の教職員も閲覧し参考にできるようにしている。

②～④ 専任教員対象FD、教員・職員対象FSD、職員研修への参加SD

毎月教授会終了後の1コマをFD実施用の時間として年間確保している。原則その時間は確保されておりFD委員会にて協議し、テーマを設定した課題にて、FDを開催している。

なお、国際看護学部では、学部においても独自のFDを実施しており、2019年度は、1. 多様な文化・多様性への理解・受容を深め、教育能力の向上を目指す。2. 本学部の目指す看護教育を全学部教員が共通認識をしたうえで、授業の具現化に向けた教育の質保証・向上につなげる。を目標とし全6回行った。

職員研修(SD)に関しても、執行部の教員に対して参加を依頼し教職協働の相互理解のもと、より幅広い理解と様々な学修支援を実施している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

2019年 7月 9日(火)	学園財務報告について	64名/110名
2019年 9月10日(火)	学校教育と著作権について(FSD)	72名/110名
2019年 9月17日(火)	プレゼンフェスタFD①	55名/110名
2019年 9月24日(火)	数理・データサイエンスと社会とのつながりについて	36名/110名
2019年10月29日(火)	PC必携化FD	41名/110名
2019年12月17日(火)	プレゼンフェスタFD②	60名/110名
2020年 2月18日(火)	ハラスメント研修FD/SD	91名/110名
2020年 2月26日(水)	PC必携化FD(パソコン教室利用者のみ)	25名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

「教員相互の授業見学」については、目的や視点について案内文に明確に表示し報告書の様式も変更している。今年度は任意である非常勤講師の見学実施が増加しており、今後も継続実施していく中で相互見学による、より良い授業が専任教員のための科目に留まらず、非常勤教員の授業にもより一層の拡大が期待される。

教授会終了後に確保しているFD時間を有効に活用し、定例のFDを開催し、学修者にとってより良き授業となるよう、授業改善に取り組んでいる。

定例外で、他のテーマとして開催する研修会も様々な意味で直接的・間接的に授業運営に役立っているといえる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎年春学期には7月に、秋学期には1月に全科目を対象として「授業評価アンケート」を実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

「学生による授業アンケート」を実施し、全科目に対してマークシート及び自由記述において、学生の意見も聴取している、アンケート結果については、集計し、各教員へフィードバックするとともに、自由記述等に対して教員はコメントを入力するようになっている。

集計後は、学内のLMSシステムであるe1-Campusにより教職員・学生に授業アンケート結果を公表している。

本システムは、総合学習システムであり、学生への掲示から自己学習システムや授業での配布物に加え、学生個人のポータルサイトまで含まれているものである。その中の掲示機能を応用し教職員・学生に対して、自由に閲覧できるようになっている。

なお、アンケートの集計結果を本学ホームページ上にも公表している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

【国際看護学部設置の趣旨と目的】

国際看護学部は、国際化にともない急速に変化する地域に在住する日本人だけでなく、定住外国人や訪日外国人、帰国者や渡航者および在外日本人をも含めて、国際化する社会に暮らす人々を対象に、多様な文化的背景や複雑多岐にわたる価値観、生き方を理解、受容し、看護の専門職として高潔な倫理観と使命感をもち、実践性・応用性のある健康支援と看護が提供できるグローバル人材としての看護師を養成することを目的として設置した。これを実現するために、建学の精神と目的に沿って、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3つを定めている。

1. 入学選抜

入学者の選抜においては、学力審査、面談、面接、適性検査、小論文、高等学校の調査書、外国語等の資格試験の結果、大学入試センター試験の結果等をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせて、必要な資質を有しているかを評価した。また、学が意欲のある学生を選抜するために、出願時の志望理由書1600字程度を課して、やる気を図る資料とした。その結果、令和元（2019）年度の入試種別では志願者数、受験者数、合格者数及び倍率は当初の計画より多く、入学者の質を担保した上で、適正な入学者数を確保することができた。

2. 修学状況

令和元（2019）年度入学学生数84人のうち、令和2（2020）年5月現在では81人が在籍している。国際看護学部全体の平均GPAも2.84と高く、総体的に見て学習意欲の高い状況が継続できている。なお、対人関係への悩みと学業意欲低下及び学費等の理由による退学者は2人、転学部1人であった。退学者については、退学後も面談を継続し、就労・就学支援に努めている。

3. 教育目標の達成状況

学生の教育支援としてアドバイザー制を導入し、1人の教員に12人前後の学生を割り当て、学習支援を中心に学生からの意見を取り入れた教育改善に努めている。講義展開としてはグローバル人材育成に向けたアクティブラーニングの導入や、キャリアプランニングの講義を通してプレゼンテーション能力も促すように工夫している。電子教科書を用いた講義は、本学情報メディアセンターとの連携を強化し学生支援に努めているが、教員間の意識統一がまだ不十分な場面もみられるため、次年度以降も、当初の計画に沿って、人材育成を行っていく。

グローバルコミュニケーション教育の核となる英語教育はネイティブの専任教員を中心に、1年次春学期より、大手前独自のプログラムLEO（Language Education of Otemae）による英語教育を行っている。看護の場面に求められるコミュニケーション能力の習得を重視し、学生の英語力別のクラス分けをした上で、1クラス30人程度の少人数制で講義を対応している。そして、英語教育のフォロー体制として、英語科目の終了後も、コミュニケーション力の弱い学生12人を対象に、イングリッシュカフェを週1回、計13回実施している。令和元（2019）年度秋学期の出席率は44.2%で、全出席2人、全欠席1人、1回のみ出席が2人であった。春学期（83%）に比べ出席率が低下した理由は「他の授業の課題に追われている」が多いなどである。また、秋学期開講科目の医療英語を用いた看護師の対応について学ぶ「国際看護演習Ⅰ」では、外来の問診に使用する医療英語について教授し、基本的な外来での症状に関する語彙力を育成した。また、毎回の講義時にミニテストを行い、医学英語検定に向けたテストに取り組む姿勢も促すように工夫した。講義後はメディカルイングリッシュカフェの時間を8回設けて、医療英語の学習力が低い学生を対象にフォローを行った。前述したような英語学習を行うにあたっては、学生の英語力を随時評価し、適切なフォローを行うように努めている。また、プレイスメントテストやTOEIC等、英語検定等の民間試験を推奨し、学生の語学力向上に向けて取り組んでいる。

4. 実習展開

1年次から開始する定住外国人への看護を学ぶ「国際看護学実習Ⅰ」と、病院組織の管理運営と看護師の役割を学ぶ「基礎看護学実習Ⅰ」を実施した。実習指導は、実習学生1グループに対して1名の指導教員を配置し、指導教員は実習配置の計画を基に、実習前後で臨地実習指導者と実習内容の調整を密に行い、実習中は双方が連携協力して学生の指導を行ってきた。特に、1年次春学期に配置されている「国際看護学実習Ⅰ」は、地域で活動する定住外国人支援センターなどのNPO団体であることから、1年次に行う本実習の目的への理解を促し、実習中も毎日、打ち合わせ会議をもち、目的の到達に向けて調整を行ってきた。また、1年次秋学期の外来実習を主な目的とする「基礎看護学実習Ⅰ」においても、複数の施設を用いて実習展開をするため、臨地との調整を密に行い、効果的で有意義な実習が行えた。そして、指導教員は、臨地実習施設において、学生の実習計画や教育内容および教育指導に対して責任をもち、実習期間中に1週間のうち原則1日はカンファレンスや実習記録、看護技術の復習等に関する個人指導を行って、効果的な実習の展開を図った。その結果、実習に臨んだ83人は全員が単位を修得することができた。さらに、実習終了後は各施設における学びと、看護師となるために必要な学習や事後の振り返りを行い、今後の課題を学生自身で考え、プレゼンを行い、知識の共有を図ることができた。

5. 国際看護研究所の開設と活動

国際看護研究所では、本学部の教員の研究力を高めるだけでなく、臨地の看護職の研究力を促すために、システムティックレビュー研究を行うJBIセンターを開設した。また、看護理論の再考を図る国際看護研究者たちとの連携を取り、同研究者達が行っているILCの活動を推進し、順次、本学教員の研究力を高めている。本学教員の中からJBI本部においてCSRTの指導者資格取得者1名を輩出することができ、現在もう1名の資格取得者予定となっている。そして、令和2（2020）年度からは国際看護研究所発行の論文集を刊行するために委員会規約や投稿規程を作成し、投稿を募集する段階となった。

よって、上記内容より、令和元（2019）年度の進捗状況は設置の趣旨に沿ったものであり、目標も達成できていると考える。

② 自己点検・評価報告書

令和2（2020）年度内に「大手前大学 自己点検・評価報告書」を作成する予定である。

a 公表（予定）時期

令和3（2021）年 6月下旬 公表予定

b 公表方法

本学webサイトにて公表予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成27（2015）年度に評価機関（（公財）日本高等教育評価機構）の評価を受審した。
- 次回受審については、令和4（2022）年度に受審を受けるべく計画している。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [☒ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☐ 公表後2～3ヶ月以内 ・ ☐ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ ☐ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。